

# 日刊建設工業新聞



地球温暖化問題を背景に、建築分野での普及拡大が見込まれる建材一体型太陽電池(BIPV=Building Integrated Photovoltaics)。建築デザインの視点から実務者らにその入門書として活用してもらおうと、太陽エネルギーデザイン研究会(略称・SDC)が『BIPVって何? 太陽エネルギーを纏う建築』を発刊した。伊澤岬名誉会長(日本大学名誉教授)をはじめ、執筆メンバーでもある大野二郎会長(日本設計環境創造マネジメントセンターシニアアドバイザー)と石井久史副会長(LIXIL R&D本部新事業研究センターゼロエネ建築グループリーダー)に話を聞いた。

## 広がる“建材一体型太陽電池”の可能性

### 太陽エネルギーデザイン研究会『BIPVって何?』発刊

——環境建築を取り巻く状況は。伊澤 研究会は2010年に発足し、これまで活動してきた一つの成果としてこの本を出版できた。東日本大震災を契機に、再生可能エネルギーに対する社会的認知度は一気に高まった。中でも太陽光発電の普及には、再生可能エネルギー法の成立や再生可能エネルギーの固定価格買い取り価格制度の導入なども大きな追い風になった。ただ、メガソーラーに代表されるように、現在の太陽光利用では発電量や経済性などが強調され過ぎていて、そうした中にある

——BIPVの可能性は。石井 都市空間に占めるビルディングファサードの面積は大きく、これを有効に使わない手はない。BIPVという、ビルの外壁などに付いた太陽光発電設備だと思われるだろうが、環境性能的に見るとそれだけでなく、日射の遮蔽などいろいろな使い方がある。

——今回発行した本の特徴は。大野 建築デザインの立場からBIPVの最新技術情報や事例を豊富に紹介している。建築・住宅のZEB化、ZEH化へのデザインマニュアルとして広く活用していただきたい。

——環境建築を取り巻く状況は。伊澤 研究会は2010年に発足し、これまで活動してきた一つの成果としてこの本を出版できた。東日本大震災を契機に、再生可能エネルギーに対する社会的認知度は一気に高まった。中でも太陽光発電の普及には、再生可能エネルギー法の成立や再生可能エネルギーの固定価格買い取り価格制度の導入なども大きな追い風になった。ただ、メガソーラーに代表されるように、現在の太陽光利用では発電量や経済性などが強調され過ぎていて、そうした中にある

### 3氏に聞く デザインと環境性能に優れた建築づくり



伊澤 岬氏



大野 二郎氏



石井 久史氏

建築設計事務所、ゼネコン、大学などのさまざまな専門家に協力を頂いた。BIPVの全体感を把握でき、なおかつ

——今後の活動は。大野 研究会は地球温暖化の防止に都市・建築の立場から貢献することを大きな活動目的としている。太陽光発電だけでなく、太陽熱や地中熱の利用などにも取り組むとともに、外装デザインとしてのファサードエンジニアリングの研究開発や実地導入を進め、さまざまな環境要素技術を融合・昇華させて環境建築デザインの実現につなげていく。

どの分野の方が読んで他分野のことがある程度は分かるよう構成した。興味のある方にもっと深く読んでもらえれば、より自分のものに取り込んでいただけたらと思う。

伊澤 これからの建築家は、エネルギーの問題を十分に理解し、それをデザインに転嫁することがより求められていく。この重要性を理解していきたい。

#### 【書籍紹介】

BIPVの導入に当たり、建築主や建築設計者、建設会社、電気設備工事会社、専門工事会社、学生らが実務入門書として活用できる一冊。全8章で構成され、第1章の「眺める」では太陽エネルギー技術の変遷やBIPVの概略といった全体を俯瞰。第2～4章「比べる」「つくる」「わかる」で設計的な要素としての基本事項を、第6章「続ける」で施工や維持管理の留意事項、第7章「学べる」で国内外の施工事例などを解説する。第8章「試みる」では、最新の取り組み事例を紹介するほか、太陽エネルギーの可能性についてカラー写真や図版を多用して展望している。(テツアード出版発行、太陽エネルギーデザイン研究会編、定価3000円+税金)

